

同意書

彦根市立病院 院長 様

患者 氏名 ①
保証人（親族） 氏名 ②（本人との続柄： ）
説明医師 氏名 ③

下記の診療行為の内容について説明を受け、理解しましたので、その実施に同意いたします。

記

1. 予定手術・処置・治療・検査

造影剤（ガドリニウム製材）を用いるMR検査

2. 予定日 年 月 日

3. 病名および診療行為等の内容

今回実施するMR検査は、“造影剤”という薬剤の注射をして行います。造影剤を用いることにより、あなたの病気の状態をより正確に明らかにし、治療をしやすいことができます。造影剤を使用しなくてもMR検査は行えますが、正確な診断が出来ず病気を見落とす場合があります。これは、安全な薬剤ですが、まれに副作用が起こることもあります。副作用の種類は次のようなものです。

4. 合併症と危険性

- 1) 軽い副作用：吐き気・動悸・頭痛・かゆみ・発疹・味覚異常などで、基本的に治療を要しません。このような副作用の起こる確率は、約100人につき1人、つまり1%です。
- 2) 重い副作用：呼吸困難、意識障害、血圧低下などです。このような副作用は、通常は治療が必要で、後遺症がのこる可能性があり、入院や手術が必要なこともあります。このような副作用の起こる確率は、約2.5万人につき1人（0.004%）です。ただし気管支喘息の方では造影剤の副作用が起こりやすいとされています。また、重篤な腎障害のある場合は腎性全身性線維症があらわれることがあります
- 3) 病状・体質によっては約83万人につき1人の割合（0.0001%）で、死亡例の報告もあります。
- 4) 造影剤を投与後1時間～数日後に副作用で発疹・発赤・じんましん・嘔気・嘔吐・血圧低下・頭痛などが起こることがあります。このような症状があれば速やかにご連絡ください。
〔2）、3）の数字は2005年 日本医放会誌掲載資料による〕

造影剤を注射する時には、

- 1) 体が熱くなることがありますが、直接の刺激であり心配ありません。
- 2) 勢いよく造影剤を注入するために、血管外に造影剤がもれることが約100人に1人（1%）の割合であります。この場合には注射した部位がはれて、痛みを伴うこともありますが、基本的に時間がたてば吸収されるため心配ありません。もれた量が非常に多い場合には、別の処置が必要となることもありますが、非常にまれです。当院では万一の副作用に対して万全の体制を整えて、検査を行っています。もし変だと感じたら、ためらわず、すぐにおっしゃってください。

***造影剤検査を拒否される場合には、以下の欄にご署名ください。**

私は、現在の病状、造影検査について説明を受けましたが、造影検査を受けることを拒否いたします。そのことによる結果について、主治医・検査担当医・病院の責任を追及しないことに同意いたします。

患者または代理人（続柄 ） （署名） (印)

別紙問診票あり